

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要

学校名	岩瀬町立坂戸小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	2	2	1	9	15
児童数	38	38	40	40	41	48	1	246	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の定着と自ら考える力の向上を図る教育の実践 ～算数科における個に応じた指導を通して～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・算数</p> <p>本校では、学年が高くなるにつれて学習内容が理解できなくなり、算数を嫌いになる児童が増えるという傾向があった。また、県の「学力診断のためのテスト」においても他の教科に比べて落ち込みがみられるという実態だった。</p> <p>そこで、子ども一人一人がそれぞれに持つ能力を可能な限り引き出し、これを伸ばすためにそれぞれの学習場面に応じた柔軟な指導体制や指導方法を工夫することにより、基礎・基本の定着と自ら考える力の向上を目指すことにした。</p>
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着と自ら考える力の向上を図る教育の実践 ～算数科における個に応じた指導を通して～</p> <p>仮説 学習の場面で、少人数の学習形態や習熟度別による指導形態、チーム・ティーチングによる学習指導等、個に応じた柔軟な指導体制や指導方法を工夫すれば、児童一人一人の能力が可能な限り引き出され、基礎・基本の定着と自ら考える力の向上が図れるであろう。</p> <p>児童の学力を生かした評価をすれば基礎・基本が定着し、自ら学び自ら考える力が育成され、確かな学力の向上が図れるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 個に応じた指導 ア コース別学習の導入（少人数指導、習熟度別指導） イ 基礎・基本の定着（段階別学習プリントの作成） ウ 提案授業の実施</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 基礎・基本の定着と自ら考える力の向上を図る教育の実践 ～算数科における個に応じた指導を通して～</p> <p>仮説 少人数、習熟度別、チーム・ティーチング（以後TTと記す）による学習指導等、学習の場面で個に応じた柔軟な指導体制や指導方法を工夫すれば、児童一人一人の能力が可能な限り引き出され、基礎・基本の定着と自ら考える力の向上が図れるであろう。</p> <p>児童の学力の評価を生かした指導をすれば、基礎・基本が定着し、自ら考える力が育成され、確かな学力の向上が図れるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 個に応じた指導 ア コース別学習（少人数指導、習熟度別指導） イ 基礎・基本の定着（段階別学習プリントの作成）</p>
--------	--

ウ 評価の工夫  
 エ 提案授業の実施  
 \* 他の教科と比較すると算数科に手だてが必要と思われる本校の実態を踏まえ、サブテーマを「～算数科における個に応じた指導を通して～」にした。また、発展的・補足的な学習教材の工夫・開発をするとともに、研究の仮説として を加えた。

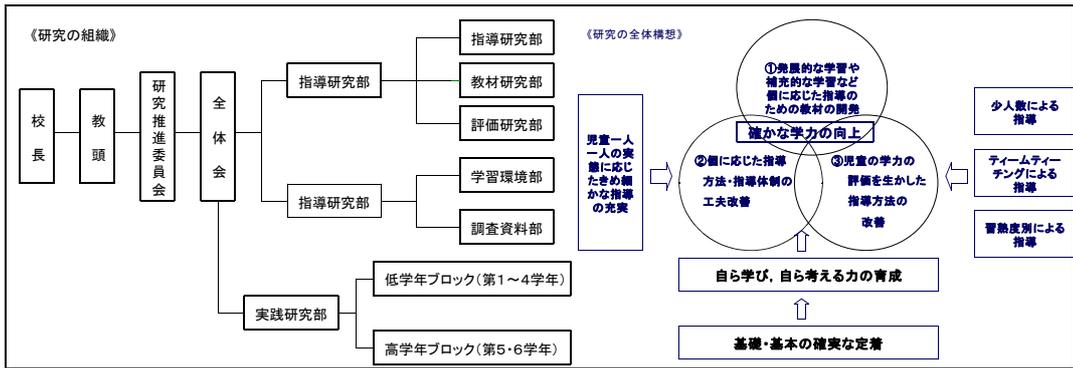
平成16年度

テーマ  
 基礎・基本の定着と自ら考える力の向上を図る教育の実践  
 ～算数科における個に応じた指導を通して～

仮説  
 児童の学習状況を適切に評価すれば、つまずきに対する支援がスムーズに行われ、基礎・基本の定着と自ら考える力の向上が図れるだろう。  
 発展的・補足的な学習のための教材を工夫すれば、基礎・基本が定着し、自ら考える力の向上が図れるだろう。

研究の内容・方法  
 個に応じた指導  
 アイウエオ 指導体制や指導方法の工夫・改善（少人数，習熟度別，TT）  
 アイウエオ 基礎・基本の定着（段階別学習プリントの作成）  
 アイウエオ 評価の工夫・改善  
 アイウエオ 教材教具の工夫・開発・活用  
 アイウエオ 提案授業の実施

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

成果  
 児童の変容  
 学習への興味・関心が高まり、意欲的に活動する態度が育ってきた。  
 見通しをもって学習に取り組むようになった。  
 ノートや自己評価カード等で、自ら学習を振り返るようになった。  
 アンケート結果（下グラフ参照）

《あなたは算数が好きですかH15.7》

《あなたは算数が好きですかH16.2》

「算数は好きですか」と H15(6年時 2学期) - H14(5年時 2学期)

この質問事項に対しては、上のグラフのような結果になった。ここに記してはいないが、平成14年度より算数が好きになっている児童は増えている。

	評価	A	B	C
観点		増減	増減	増減
関・意・態		7.2%	-7.2%	0.0%
考え方		-1.3%	1.2%	0.1%
表現・処理		15.7%	-17.9%	2.2%
知識・理解		9.4%	-7.4%	-2.0%

右の表は、現6学年児童の観点別評価を5年時の2学期のものと比較したものである。《学力診断のためのテスト観点別評価の変化》が、昨年度よりAの割合が増えている。考え方がマイナスとなっているが、前年度1学期との比較ではプラスの値を示す。自分にあった学習形態を選択できるので、児童は習熟度別(コース別)学習を好んでいる。児童の実態を把握し、単元の内容を考慮しながらTT等の学習形態とうまく組み合わせていく必要がある。

教師の変容

各学年、年間3回の提案授業により、ブロック間での協力体制が深まった。発展的・補足的な学習のための教材の工夫・開発に取り組むようになった。個を生かすための評価を考えるようになった。

## 2. 今後の課題

個に応じた指導の実践が、基礎・基本の定着につながっていくので、児童の習熟度に応じた指導が重要である。児童の実態を把握し、指導に生かすための評価とともに、次のようなことが課題としてあげられる。  
加配教員の有無によらない、一斉指導の中での習熟度別指導の在り方  
複数教科での習熟度別学習の在り方  
発展的な学習・補足的な学習のための教材の工夫・開発・活用

## 学力等把握のための学校としての取組

茨城県学力診断のためのテスト(年1回4月実施)

本校児童の学習の習熟の度合いを本件の正答率と比較することで、その後の指導に活用する。7月に全職員で分析と考察を行っている。

漢字力・計算力テスト(月1回、月末)

単元で学習した漢字、計算が身に付いているかどうかを確かめる。80点以上を合格とし、それに達しない場合は再テストとなる。カードやシールで励ましながら学習の基礎・基本の定着を目指している。

算数科におけるプレテスト(単元ごと)

新しい単元に入る前に、その単元に関連する既習事項を中心に出题し、児童の実態を把握している。その結果をふまえて児童はコースを選択している。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

授業公開および研究協議会等(場所:坂戸小学校)

平成15年 5月 8日 対象:茨城県文教治安委員会

平成15年 10月 20日 対象:水戸教育事務所管内および管外のフロンティアスクール

平成15年 11月 7日 対象:茨城県研修センターTT研修講座受講生

平成16年 2月 3日 対象:岩瀬町学力向上フロンティアスクール

成果

10月の研究発表会の他、本県の文教治安委員、TT研修講座受講生、岩瀬町学力向上フロンティスクールの(岩瀬小学校、西中学校)教員に授業を公開し本校のコース別やTTの学習形態や指導方法を紹介した。その結果、学習形態や学び合いの場の在り方、教材等について参考にしたいという意見が聞かれた。

授業公開時に指導案、資料等を配布し、本校の取組を紹介した。

他校フロンティアティーチャーとの連絡や意見交換等により、相互の取り組みの様子を確認した。

学力向上推進事業の本校の取組が、茨城新聞に掲載された。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】            1 5 年度からの新規校    1 4 年度からの継続校
- 【学校規模】                    6 学級以下                     7 ~ 1 2 学級  
                                  1 3 ~ 1 8 学級                1 9 ~ 2 4 学級  
                                  2 5 学級以上
- 【指導体制】                     少人数指導                     T . T による指導  
                                  一部教科担任制                 その他
- 【研究教科】                    国語                    社会                     算数                    理科  
                                  生活                    音楽                    図画工作                家庭  
                                  体育                    その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】    有                    無